延命水

八乙女は山が小さい上、沢がないので飲料水には特に不自由であった。玉川まで水汲みに出ると対岸から義家軍の弓の矢が飛んできた(当時玉川は八乙山から一〇〇メートルも離れた東の方を流れていたと語る)、しかし東側に杉小立ちがあって小さな沢に細い細い流れがあり、この水を敵から見られないよう密かに貯えていた。これを延命水と呼んでいたと伝えている。現在も細い水が流れている。